





『砺石山双牌農樂』は全羅南道靈岩郡新北面月坪里にある砺石山を中心に繰り広げられた高麗太祖・王建と後百済王・甄萱の大接戦過程を農樂で演じたもので、南道文化祭で優秀賞を受賞した。

湖南右道農樂では、「昼は33、夜は28」という言葉が伝わっている。『33』は軍隊が敵陣に向かって進撃または潜入する多様な接近方法を用いた軍事的陣法を表し、現在も再現が可能だが、『28』は両軍が互いに異なる戦術戦略(陣法)で敵軍大将の首を取るために繰り広げる戦争駆け引きの一種で、現在は原形となる陣法を見つけることができない。

『砺石山双牌農樂』は湖南右道農樂の示す28の戦術戦略を高麗と後百済の戦いとして再解釈し、農樂で演じた民俗行事。

砺石山双牌農樂の構成 (偵察、進軍、接戦、和平)

- ① 偵察：敵陣の動きを把握するための過程
- ② 進軍：敵陣に進軍する過程
- ③ 接戦：敵と交戦する過程
- ④ 和平：戦いをやめ、和平を結ぶ過程

この過程で湖南右道農樂の多様な陣法と調べが演奏される。

- 公演時間：30分